令和６年度　学　校　評　価　【　計　画　書　・　報　告　書　】　　加賀市立　庄 小学校 校長 野田 美由紀　印

学校教育ビジョン
教育目標　「かしこく　やさしく　たくましく」
「行きたくて　行かせたい　行ってみたい学校」
＜自ら学ぶ子＞　＜自分も人も大切にする子＞　＜自分に負けない子＞

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果（中間）	今後の改善策
①教育課程・学習指導	・進んで自分の学びを深め，学びの楽しさを実感する子を育てる。	・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた授業改善に取り組む。	教務 学力づくり部	・学習規律が整い、学習への意欲はある。しかし、児童の学力は低く、自ら進んで学んだり、方法を試そうとする姿は学年によって差がある。	【成果指標】 ・低学年は2教科、中学年以上は4教科の学期末テストで、80点以上とる児童の割合が A：80%以上　B：70%以上 C：60%以上　D：60%未満	低学年は2教科、中学年以上は4教科の学期末テストで80点以上とることができた児童の割合が A：80%以上　B：70%以上 C：60%以上　D：60%未満	学期末テスト		
②生徒指導 ※いじめの未然防止	・進んでさわやかなあいさつをする子を育てる。	・児童会を主として、児童集会などであいさつの意義や仕方を考え、あいさつ運動などを通して実践する。	心づくり部	・素直で真面目な児童が多く、先生に言われたことはできるが、自分から行動する児童が少ない。自分たちでさわやかな挨拶をする意識を高め、自分たちで考えて主体的に行動できるようにする。	【成果指標】 ・進んでさわやかなあいさつをすることができる。	進んでさわやなかあいさつをすることができた割合が A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満	児童アンケート （学期末）		
	・WEBQUやアンケートを生かして児童を理解する。	・年2回WEBQU、年八回アンケート、年三回の相談活動を通して、児童理解に努め、指導に生かす。	心づくり部	・WEBQUやアンケートを行い児童理解に努めてきたが、充分に生かしきれていない。	【成果目標】 ・WEBQUやアンケートを生かして児童への指導に生かすことができる。	WEBQUやアンケートを生かして児童への指導に生かすことができた割合が A:90%以上　B:80%以上 C:70%以上　D：70%未満	職員アンケート （学期末）		
③進路指導・キャリア教育	・キャリア教育の4つの柱の中の「自己理解・自己管理能力」を高める。	・好きでないことや苦手なことでも,自分に負けずに取り組む。	心づくり部	・与えられたことには素直に取り組む児童が多いが，自分で目標を持って，いろいろなことに取り組もうとする意欲が低い。	【満足度指標】 ・キャリア教育で育てたい力：自己理解・自己管理能力（学年の重点項目）を意識してキャリアパスポートを活用して指導にあたる。	好きでないことや苦手なことでも,自分に負けずに取り組むことができたと答える児童の割合が A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満	児童アンケート （学期末）		
④保健管理	・自分の立てためあてを意識して活動することができる児童を育てる。	・児童一人ひとりが具体的なめあてを持って学習に取り組めるようにする。 ・児童が自分のめあてを達成できたかどうか振り返りを行う。	体づくり部	・体育の授業が楽しい、運動やスポーツが好きと感じている児童が多い。 ・体育的行事などにおいて、自分のめあてを意識して活動している児童が少ない。	【成果指標】 「自分の立てためあてを意識して活動し、めあてを達成することができた」と感じる児童を80%以上にする。	「自分の立てためあてを意識して活動し、めあてを達成することができた」と感じる児童の割合が A：80%以上　B：70%以上 C：60%以上　D：60%未満	児童アンケート （学期末）		
	・ 基本的な生活習慣を身につける。	・睡眠とメディアを関連付けて睡眠の質を上げる取り組みを実施する。 ・生活リズムチェックの取組を行う。	体づくり部	・早寝早起きの取り組みを行い、十分な睡眠時間を取れている児童は増えた。しかし、メディアの影響で生活リズムが乱れている児童がまだ一定数いる。	【成果指標】 ・主に低学年が就寝1時間前にメディアの使用を止めることができる。	主に低学年で就寝1時間前にメディアの使用を止めることができる児童が A：80%以上　B：70%以上 C：60%以上　D：60%未満	生活リズムチェック （年5回）		
⑤安全管理	・各種の訓練を通して，児童の危機対応力と教職員の危機管理能力を高める。	・危機管理マニュアルに沿った方法で訓練や研修を実施し，児童の危機対応力と教職員の危機管理能力が高まるように努める。	教頭・ 各担当	・火災・地震，不審者対応の避難訓練を実施しているが，教職員の危機意識維持・向上には不断の取組が必要となる。	【成果指標】 ・緊急時の対応マニュアルに従って，教職員や児童が適切で安全な避難行動ができる。	避難訓練時に，教職員・児童が適切に行動でき「よく当てはまる」と答えた教職員・児童の割合が A　80%　B　70%以上 C　60%以上　D　60%未満	児童アンケート（避難訓練後） 教職員アンケート（学期末）		
⑥特別支援教育	・支援の必要な児童に対する合理的配慮を全職員で共通理解し，適切な対応を図る。	・児童理解の会などを通して，児童への合理的配慮の共通理解を図る。必要に応じて校内支援委員会を実施する。	心づくり部	・児童理解の会や校内支援委員会などで，児童の情報を共有している。合理的配慮の共有を進めるとともに、評価と見直しを行っていく。	【努力目標】 ・児童への合理的配慮を定期的に評価し、児童と保護者の意向を確認しながら見直しを行う。	「児童理解の会でを通して児童の実態を共有し、その後適切な支援をすることができた。」と回答した教職員の割合が、 A：80%以上　B：70%以上 C：60%以上　D：60%未満	教職員アンケート （学期末）		
⑦組織運営・業務改善	業務の精選、勤務時間に対する職員の意識改革を進める。	勤務時間記録表をもとに時間外勤務45時間を超えない働き方の意識を高めるとともに、業務の精選・削減・平準化を実施する。	教頭 各主任	昨年度は、時間外勤務45時間以下の職員数がほとんどであったが、月によっては大きく下回ったり、ある個人に業務が集中したりした月もあった。	【成果指標】 教職員が計画的に自分の業務に取り組み、勤務時間の削減が図られている。	時間外勤務時間45時間以下の職員数が A　90%以上である　B　80%以上である C　70%以上である　D　70%未満である	〈勤務時間記録表　学期末集計〉		
⑧研修	・校内研修を充実し、授業改善を図る。	・校内研修サポート等を活用し、計画的に授業研究を行う。 ・授業改善のためのOJTが日常的に行われるような環境を整える。	教務 学力づくり部	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた授業づくりを行っていく必要がある。	【成果指標】 ・研修やOJTをもとに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた授業改善ができる。	研修や日常的なOJTをもとに、前学期より授業改善ができたと答えた教職員の割合が A：80%以上　B：60%以上 C：40%以上　D：40%未満	教職員アンケート （学期末）		
⑨保護者，地域との連携	学校公開の機会を積極的に取り入れ、開かれた学校づくりをめざす。また、幼保小、小中の連携を更に深める。	学校公開に取り組むとともに、学校の教育活動を「学校、学年、学級便り」等を通し、幅広く知らせる。特に、HPの更新について積極的に知らせていく。	教　頭 教務主任	学年、学級学校便りやホームページを活用し、積極的に情報を発信しているが、保護者への伝わり方は十分とはいえない。	【満足度指標】 保護者に、学校だよりなどで学校の教育活動の様子がよく伝わっている。	学校の情報発信について満足している保護者の割合が A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D　70%未満	〈保護者アンケート〉学期末		
⑩教育環境整備	児童の安心、安全な学校生活のために、校舎内外の環境の整備、改善に努める。	事故の未然防止という観点から、不備な箇所は速やかに整備すると共に安全点検や遊具点検を実施し学習環境の充実に努める。	総務部	校舎の老朽化に伴い、校内外に不良箇所が発生している。定期的に点検を行い、学習環境を整備し、安全を確認する必要がある。	【成果指標】 定期的に点検を実施し、学習環境の安全を確保することができた。	注意を払って安全点検を行い、環境整備に迅速に取り組み「よく当てはまる」と答えた職員の割合が、 A　90%以上である　B　80%以上である C　70%以上である　D　70%未満である	〈自己評価アンケート〉学期末		
学校関係者評価									